

中泊町ホタルの会(会長・荒関壽久)が、5月12日(木)滝ノ沢ふるさと砂防愛ランドで今年もホタル幼虫放流式を行い、中里小学校5年生31人と関係者20人が参加しました。

開会式では、荒関会長が「成虫になれるようお願いを込めて放流してください、そして夏のホタルまつりには、家族と一緒にぜひ見に来てください」と挨拶しました。

今年はゲンジボタルの幼虫約500匹と餌となるカワニナ約1000匹が用意されました。子どもたちは、容器に分けられた幼虫とカワニナを公園内の水路に「大きくなってねー。また会おうねー」と声をかけながら放流しました。参加した小学生は「毎年まつりを楽しみにしていたので、幼虫を放流できてうれしい。今年のホタルまつりはいつもより楽しみです」と期待を膨らませていました。

ホタルまつりは、この夏11回目を迎えます。幼虫の放流式は14回目となりました。



願いを込めて放流



みんなで記念写真

シジミのキーホルダーを作ろう

小泊小年少女
発明クラブ開講



今年はこのメンバーでスタート

やちりめん布を貼り付け、スズやラインストーンなどで飾り付けをし、オリジナルのキーホルダーを作りました。子どもたちは「シジミに和紙や布を貼り付けるのが大変だったけど、きれいにできたので嬉しい。もう1つ作って友達にもあげたい」と話していました。

同クラブでは月1回ペースで講座を開催し、秋からは2月に行われる青森県ジュニアロボットコンテストに向けて活動していきます。

小泊小年少女発明クラブが5月21日(出)日本海漁火センターで開講式を行いました。今年度は4人の新入部員が加わり、全14人でクラブの活動がスタートしました。開講式では、沼田雅輝会長から「学校では味わえないことをこのクラブを通して、是非、経験してほしい」と挨拶がありました。

開講式の後は、相澤英知専任指導員(中里小学校勤務)による1回目の講座「楽しい工作！シジミのキーホルダー作り」が行われました。

クラブの子どもたちは、シジミの貝殻に和紙



貝をくっつけるのが大変

